

令和7年度米子市松くい虫被害対策地区推進連絡協議会 会議概要

日時 令和7年4月24日（木） 午前10時～午前10時30分

場所 米子市淀江支所 2階 第2会議室

出席委員（8人） ・宅和 茂史（会長） ・大許 和浩 ・生田 公良・本田 賢治  
・足立 信二 ・山根 正敬・来海 英明・佐伯 邦典・出崎 初

事務局 農林課 ・井田担当課長補佐 ・草壁主任・松本主任  
地域生活課 ・河野課長補佐

開会 井田担当課長補佐

会長挨拶 宅和会長

（会議概要）

※意見等は、要約してあります。

議事

（1）令和7年度松くい虫防除事業について

事務局より説明

（2）質疑応答

（来海委員）

今年度の松くい虫事業の予算額はいくらでしょうか。

（事務局）

春の「予防対策」に18,053,100円、秋の「駆除対策」に2,946,900円  
を見込んでおります。

（来海委員）

今後は予算額の記載を協議会資料に掲載してほしい。

（事務局）

分かりました、来年度資料より対処いたします。

（来海委員）

2千万弱の予算を毎年投入していると思うが費用対効果はどうなっていますか。資料からは見てとれないように思います。以前、他機関に質問した際、文書で回答いただいた経

験がありますが、今回文書への回答はもらえますか。

(事務局)

文書での回答もさせていただきたいと思いますが、まずは口頭にて効果面についてお伝えします。空散は「予防」のため直接の数字が出るものではありませんが、空散などの「予防が出来ていない」弓浜部のある旧米子市の被害拡大に比べ、「予防実施エリア」を多く含む旧淀江町の被害拡大が低調に抑えられているのは、空散の効果があるものと認識しております。

(来海委員)

弓浜での被害が拡大しているとの話がありましたが、地元としては被害の原因は何だと思われませんか。

(足立委員)

昨年の猛暑により松が弱ったためではないかと認識しています。

(来海委員)

防除の種類には樹種転換もあるとのことから、いっそのこと空中散布を継続するより松林の樹種転換を行い、空中散布する松自体を無くす手段は有効ではないでしょうか。

(本田委員)

空散の有用性は大きいと考えています。かつては空散エリアはもっと広がったものの、規制等で狭まり、散布エリア今のようになっている経緯があります。空散を実施しなくなった場所はすぐにも枯れ落ちてしまい、大雨が降った際に土砂崩れが生じるなどの被害が出てしまったことがあります。地元自治会としては集落裏の松のことにも影響がある話ですので、現状の松を守れるものは守ってほしい。

樹種転換するにしても、土砂崩れ予防の機能を持たせるには、一般的な広葉樹では機能が不十分で、新たに(抵抗性の)松を育てるにしても60年はかかってしまいすぐには効果が出ることが出来ないと考えてます。

(事務局)

市としても土砂防備機能を重要視しています。転換にするにしても、既存の松を守ったうえで(部分的に彼などで出来た)空白部分に植栽を行うことは可能ではないか等、取れる手法を検討して行きたいと思います。

(来海委員)

資料に各種問い合わせ先が用意されているが、昨年度実施した際、住民の方から苦情や問い合わせはありましたか。

(事務局)

昨年度はありませんでした。

(山根委員)

弓浜部の防除はどのようになされていますか。

(事務局)

鳥取県と米子市とで分担し、国道 431 号線の海側の被害拡大を抑える目的で、秋期に枯れたものを伐倒しております。例年までですと、この手法により被害拡大は抑えられておりましたが、本年は大きく被害が拡大しており今後は「予防」等、鳥取県と連携していければと思っております。

(会長)

ほかに何かご意見はございますでしょうか？その他ご意見が無いようでしたら、以上をもちまして令和 7 年度米子市松くい虫被害対策地区推進連絡協議会を閉会したいと思います。本日はありがとうございました。